

●新型コロナウイルス SARS-CoV-2 ゲノム解析について(Vol.39)

新型コロナウイルスゲノム解析結果(2023年第34週(8月21日～27日)まで)

県内では、オミクロン株が2021年第50週(12月13日～19日)に初めて検出され、2022年第1週(1月3日～9日)以降、BA.1が主な流行となりました。

2022年第2週(1月10日～16日)に渡航歴のある患者からBA.2も検出されましたが、その後の拡大はみられていませんでした。第9週(2月28日～3月6日)以降、BA.2の検出が増加し、主な流行となりました。第25週(6月20日～26日)以降、新たにBA.5が主流となりました。

2023年第15週(4月10日から16日)以降は、XBBが目立って検出されるようになり、主流となっていると考えられます。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更となりましたが、引き続き医療機関での検体収集の協力により、ゲノム解析による流行株の把握が重要と思われれます。

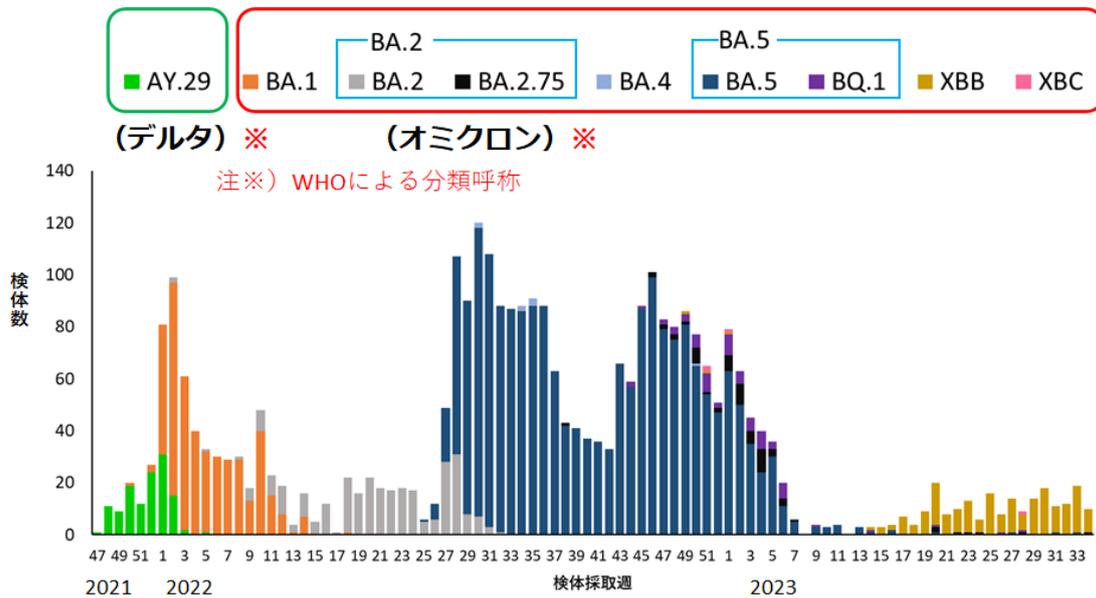


図1 新型コロナウイルス分子系統の時系列解析(検体数)【群馬県衛生環境研究所実施分】

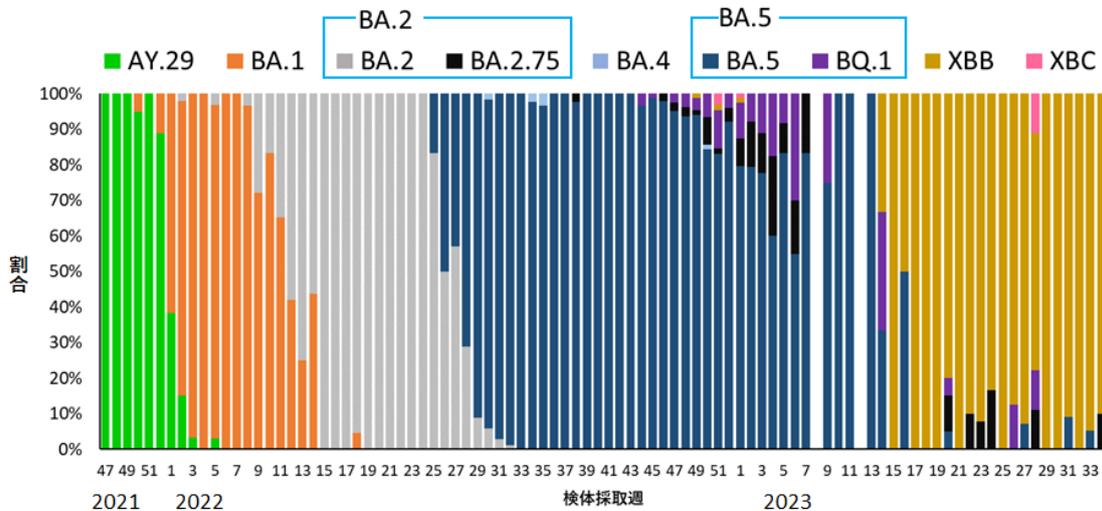


図2 新型コロナウイルス分子系統の時系列解析(割合%)【群馬県衛生環境研究所実施分】